



出前授業を担当して

今回、2013年8月開催の「高校生のための心理学講座 心理学と社会 ― ころの不思議を解き明かす ―」（東北地区）の発達心理学を担当しました。会場が大学院生時代を過ごした東北大学だったこともあり、このような機会を頂けたことを大変嬉しく思いつつ、当日の講座前には懐かしい気持ちで大学内をぶらぶら散策しておりました。しかしいざ講座が始まると、参加された高校生の皆さんの熱心できらきらとした姿を目にして、これは皆さんの期待に応えられるような講座にしなければ！と気持ちを引き締めて講座に臨みました。

思い起こせば、自分が高校生だった時にはこのような公開講座に参加する機会がなく、心理学のことをよく分からずに大学へ進学した覚えがあります。そのような自らの経験を思い起こしますと、講座の目的として①心理学について理解してもらう、というテーマに加え、②講座に参加された高校生の皆さんの知的好奇心を高める、③大学でどのようなことを学びたいのかといった際の参考にしてもらう、という二つの隠れたテーマもあったように思います。

そのようなことを考えている時、ふと気が付きました。講座に参加された高校生の皆さんは、その後どのような方法で心理学についてアプローチしていったのでしょうか？ 今回の発達心理学の講座では高校生の皆さんに参考文献・引用文献を紹介しておりましたが、その探し方などは詳しくお伝えしていないことに気が付いたのです。そこで今回は、出前授業に参加された

高校生の皆さんが、講座参加後に心理学の知識をさらに得るためにどのような手段があるのかを自分なりに考えてみようかと思えます。

大学図書館に行く

講座に参加された高校生の皆さんは、講座内で講師から紹介された書籍を探しに高校の図書館や地元の公立図書館等を利用したことと思います。2012年・2013年とともに「高校生のための心理学講座」はいずれも大学で開催されております。将来、大学進学を考えている高校生の皆さんからすれば、あこがれの大学で受ける心理学講座という楽しみもあったことと思います。しかしそれだけでは、大変もったいないように思います。大学の附属図書館の中には一般向けに図書館を開放している場合があるのです。

今回の会場となりました東北大学には附属図書館がありましたので、図書館のホームページを検索してみたところ、「学外の方も所定の手続きにより本館を利用することができます」とありました。確かに、現在学外者の身となりました私自身だけでなく、指導生である卒論生・修論生も蔵書数の多い東北最大の図書館には何度かお世話になっております。そこで今回図書館（本館）に確認しましたところ、東北大学の試験期間や休館日でなければ、高校生の皆さんの場合は所定の入館手続きをすることなどで入館することが可能だったようです（2014年1月時点）。実際、本講座の開かれた日程には東北大学の附属図書館は開館しておりましたので、講座の帰りに図書館に足を運んで手続きを取れば図書館で関連書籍を閲覧することができたわけです。



Profile — 小泉嘉子

2006年、東北大学大学院教育学研究科博士後期課程（人間発達臨床科学コース）修了。博士（教育学）。2007年、尚絅学院大学総合人間科学部人間心理学科専任講師，2011年より現職。専門は発達心理学。著書は『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』、『シードブック 発達心理学：保育・教育に活かす子どもの理解』（いずれも共著，建帛社）など。

また講座が開催された大学の附属図書館が高校生向けに図書館を開放してはなくても、夏期休暇時やオープンキャンパス時に図書館を開放する場合があります。私が所属しております尚絅学院大学では、通常は限られた方向けに図書館を開放しておりますが、大学が夏期休暇期間中は地元・名取市とお隣・仙台市太白区の高校生の皆さんも図書館を利用することができます。このように考えますと、会場が大学であることは「学びたい」と考えている高校生の皆さんにとっては非常に良い立地なのだと思います。



写真1 大学図書館へ（尚絅学院大学図書館「almo」前）

大学の購買書籍店へ

さらに、大学にはまだ魅力的な場所があります。会場となる各大学の購買部には、だいたい大なり小なり書籍コーナーがあるものです。現在私が所属しております尚絅学院大学にも、小さいながら書籍コーナーがあり、オープンキャンパスの際には高校生が書籍を手にとることができます。さらに規模の大きな大学、例えば今回の講座の開催会場である東北大学の川内キャンパスですと、書籍店が2カ所ありました。その中の一つである川内南キャンパスの文系書籍

店を覗いてみますと、入学したばかりの1年生向けの入門書から、大学院生や教員向けの専門書まで、さまざまなニーズに対応した心理学書籍が大きな本屋さんも顔負けの品ぞろえで並んでいます。このように、講座の合間や講座後にこうした場所を覗いてみるのも楽しいのではないかと思います。



写真2 大学の購買書籍店へ（尚絅学院大学の生協にて）

講座の反省として

さて、このように見てまいりますと、図書館、購買、そしてインターネットというツールを今回の講座に活かすことができたのではないかと今更ながら思い至るわけです。「今回の講座の内容については、日本心理学会のホームページに参考になる資料が掲載されていますよ」とお伝えしたり「本講座の参考文献は、会場大学の附属図書館にもありますよ」とアナウンスしたりと、いろいろ工夫するところはあったのではないかと、反省させられることが多いわけです。講座のあとに懐かしい東北大学の中を再びぶらぶらしながら、そのように思いついた次第です。（写真は尚絅学院大学の図書館「almo」前や大学生協で院生の松橋さんをモデルに撮影したイメージです）